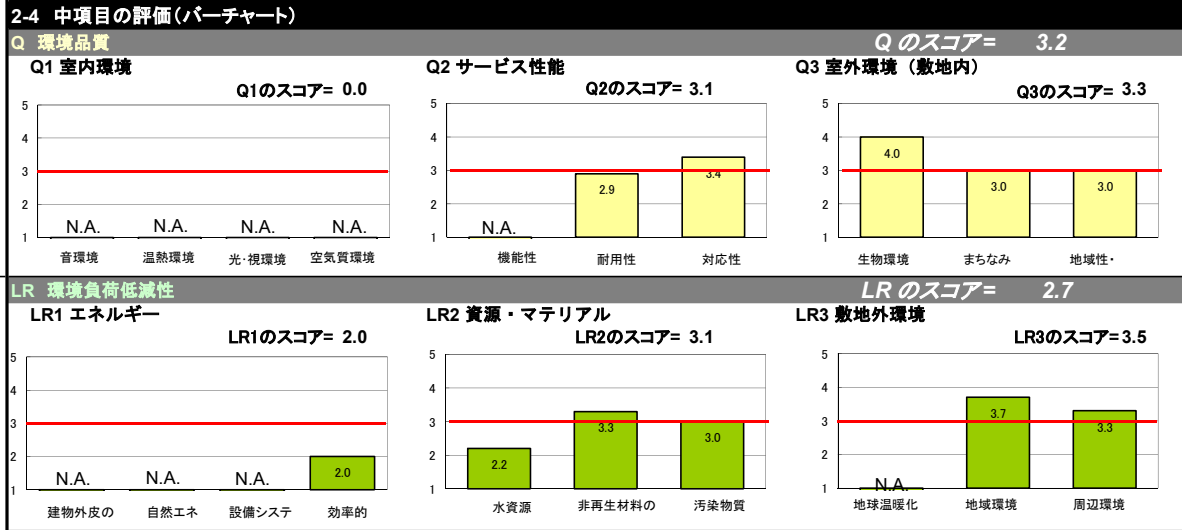
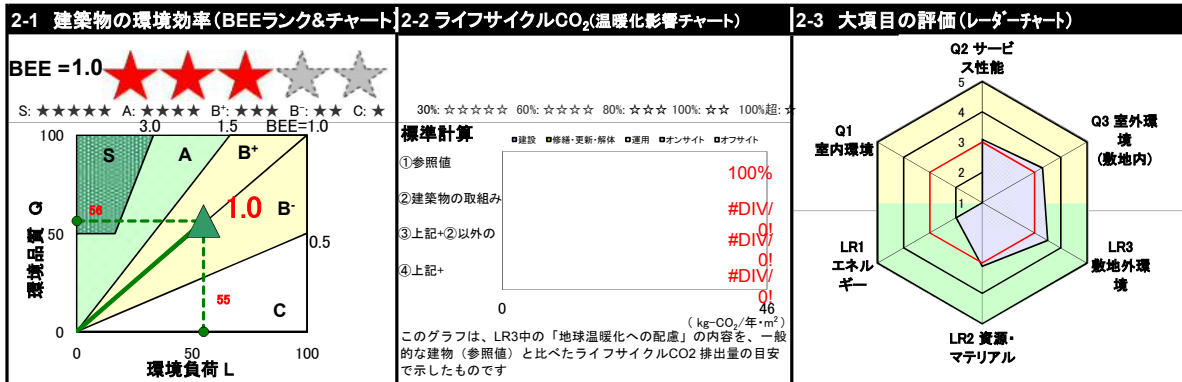


1-1 建物概要				1-2 外観		
建物名称	武豊火力発電所5号機 土工工事(階数)		地上2階	 <p>東側立面図</p>		
建設地	愛知県知多郡武豊町字竜宮1番地1(構造)		S造			
用途地域	工業専用地域、防火指定無し(法22)		平均居住人員			0人
気候区分	6地域		年間使用時間			8,760時間/年
建物用途	工場		評価の段階			実施設計段階評価
竣工年	2021年3月 予定		評価の実施日			2017年9月10日
敷地面積	148,308 m ²		作成者	近藤瑞穂		
建築面積	2,047 m ²		確認日	2017年9月14日		
延床面積	2,863 m ²		確認者	伊藤昇		



3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p>N.A</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p>4.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>19.4 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<p>②資源の有効活用</p> <p>3.1</p>	<p>④地域材の活用</p> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

- ①地球温暖化への配慮
- LR-3 1 地球温暖化への配慮
- ②資源の有効活用
- Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
- LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
- ③敷地内の緑化
- Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} - \text{附属物面積}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						全体
配慮項目	独自基準 重点項目	建物全体・共用部						建物全体・共用部		全体
		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル										
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能										
2 界壁遮音性能										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音										
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
1 室温										
2 外皮性能										
3 ソーン別制御性										
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
3 光・視環境										
3.1 昼光利用										
1 昼光率										
2 方位別開口										
3 昼光利用設備										
3.2 グレア対策										
1 昼光制御										
3.3 照度										
3.4 照明制御										
4 空気質環境										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質										
4.2 換気										
1 換気量										
2 自然換気性能										
3 取り入れ外気への配慮										
4.3 運用管理										
1 CO ₂ の監視										
2 喫煙の制御										
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ										
1 広さ・収納性										
2 高度情報通信設備対応										
3 バリアフリー計画										
1.2 心理性・快適性										
1 広さ感・景観 (天井高)										
2 リフレッシュスペース										
3 内装計画										
1.3 維持管理										
1 維持管理に配慮した設計										
2 維持管理用機能の確保										
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震・制震・制振										
1 耐震性(建物のこわれにくさ)										
2 免震・制震・制振性能										
2.2 部品・部材の耐用年数										
1 躯体材料の耐用年数										
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔										
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔										
4 空調換気ダクトの更新必要間隔										
5 空調・給排水配管の更新必要間隔										
6 主要設備機器の更新必要間隔										
2.4 信頼性										
1 空調・換気設備										
2 給排水・衛生設備										
3 電気設備										
4 機械・配管支持方法										
5 通信・情報設備										

3 対応性・更新性				3.4	0.48	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり				4.6	0.31	-	-	
1 階高のゆとり				5.0	0.60	-	-	
2 空間の形状・自由さ			高い天井高とし空間としての余裕を持たせた 耐力壁のない構造フレームとし自由度を高めた	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31	-	-	
3.3 設備の更新性				3.0	0.38	-	-	
1 空調配管の更新性				-	-	-	-	
2 給排水管の更新性				-	-	-	-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.20	-	-	
4 通信配線の更新性				-	-	-	-	
5 設備機器の更新性				3.0	0.40	-	-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.40	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57	-	-	3.3
1 生物環境の保全と創出			独自③	4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④	3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④	3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温暖環境の向上				3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性								2.7
LR1 エネルギー					0.40	-	-	2.0
1 建物外皮の熱負荷抑制				-	-	-	-	
2 自然エネルギー利用				-	-	-	-	
3 設備システムの高効率化				-	-	-	-	
4 効率的運用				2.0	1.00	-	-	2.0
集合住宅以外の評価				2.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制				1.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	
4.1 モニタリング				-	-	-	-	
4.2 運用管理体制				-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					0.30	-	-	3.1
1 水資源保護				2.2	0.15	-	-	2.2
1.1 節水				1.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.3	0.63	-	-	3.3
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.07	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			② 独自	5.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み			独自	3.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	1.00	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				-	-	-	-	
1 消火剤				-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)				-	-	-	-	
3 冷媒				-	-	-	-	
LR3 敷地外環境					0.30	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮			①	-	-	-	-	
2 地域環境への配慮				3.7	0.50	-	-	3.7
2.1 大気汚染防止				5.0	0.25	-	-	
2.2 温暖環境悪化の改善				3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				4.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			独自	3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制				4.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			独自	5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				4.0	0.25	-	-	
火発電所全体として構内の汚水をまとめて処理している。 進入路、自動車駐車場、搬入ヤード、自転車置場、を確保 適切な量のゴミ置場を確保(発電所全体での取り組み)				4.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				3.3	0.50	-	-	3.3
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
1 騒音			独自	3.0	0.33	-	-	
2 振動			独自	3.0	0.33	-	-	
3 悪臭				3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制				3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制				-	-	-	-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				4.7	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				5.0	0.70	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			光害に該当するような屋外照明、サイン等は設置しない。 建物外壁は押し出し成形セメント板素地仕上とし、反射グレアを抑制	4.0	0.30	-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

武豊火力発電所5号機 土建工事(石こう建屋)

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				N. A
LR3-1	地球温暖化への配慮	0.0	0.00	
② 資源の有効活用				3.1
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.3	0.19	
③ 敷地内の緑化				4.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	4.0	0.17	外構緑化:19.4%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	今回計画建物が外部環境に与える影響をできるだけ抑え、既存緑地の保護と新設緑地による敷地全体の緑化に努めた。
Q1 室内環境	評価対象外
Q2 サービス性能	一人当たりの作業空間に十分なゆとりを持たせた。又、高い天井高とし高さ方向の空間のゆとりも十分確保した
Q3 室外環境(敷地内)	環境アセスを実施し、生物の環境保全に努めた。
LR1 エネルギー	照明器具は省エネルギー性に配慮し、LED照明器具を採用する。
LR2 資源・マテリアル	有害物質を含まない材料使用を採用し、リサイクル材等を積極的に採用する。
LR3 敷地外環境	光害を発生するような照明・サインなどを設置しない。
その他	<p>計画建物の位置については、住宅地側より距離のある位置としている。 又、建設工事において、廃棄物の分別とリサイクルを積極的に行う。</p> <p>※省エネ適判は対象外のため、本計算に反映しません。</p>